

教科等研究会（小学校生活・総合的な学習部会）

令和 4 年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

豊かな体験と表現に支えられ 学びをつなぎ 学びを深める子どもの育成
～児童一人ひとりが輝く授業づくりを通して～

2 研究経過

第 1 回			第 2 回				第 3 回			第 4 回		
期日	人数	場所	期日	場所	講師	内容	期日	授業者	場所	期日	授業者	場所
六月六日（月）	二十九名	広安西小学校	八月二日（火）	広安西小学校	藪田 豊田 県立教育センター 挙美 麻美 指導主事 指導主事	理論研修	十一月十日（木）	木下 亮 一年担任 津森小学校 教諭	津森小学校	一月二十六日（木）	青木 秀憲 二年担任 乙女小学校 教諭	乙女小学校

3 研究の概要

(1) 研究の内容

今年度の当部会のテーマは、上益城郡教科等研究会全体テーマを受けて、「豊かな体験と表現に支えられ 学びをつなぎ 学びを深める子どもの育成～児童一人ひとりが輝く授業づくりを通して～」とした。このテーマは、昨年度から引き続いて取り組んでいる。

GIGA スクール構想のもと、タブレット端末が一人一台配備されて二年目となった。昨年度の理論研修での学びを生かし、生活科や総合的な学習の時間において、児童が学んだことを表現する方法の一つとして ICT の活用にも焦点を当てて研究を進めた。

① 研究主題について

○ 「豊かな体験と表現」とは

子どもたちの中に感動や葛藤が生じ、知的好奇心を高め、探求的な学習へつなぐことができる体験、及び、活動の楽しさ・気付きや情報を整理・分析したことを、多様な方法によって伝えたりまとめたりすること

○ 「学びをつなぐ」とは

子どもが「探求的」「横断的・総合的」「協働的」な学習を発展的に繰り返し、気付きの質を高めたり、思考を広げたり深めたりしていくこと

○ 「学びを深める」とは

自分のよさや成長が分かり、学習したことを自分の生活や生き方に生かし、社会の中での自分を見つめ、主体的に行動していこうとすること

② 研究の視点について

研究の視点 1	探究的な学習過程における豊かな体験活動の工夫
研究の視点 2	気付きや考えを整理・分析・表現・交流する言語活動の充実
研究の視点 3	子どもの学びをつなぎ深める指導と評価の工夫

(2) 成果と課題 (○成果 ▲課題)

- 「熊本の学び」ステップ・アップ研修を活用し、県立教育センターから豊田指導主事と藪田指導主事を招いて生活科・総合的な学習の時間の講話及び ICT 演習をしていただいた。
- 研究授業や研究協議を通して、様々な実践を学ぶことができた。また、児童の思考を深めるための授業をするためには、準備や授業の流れを練ることが大切だということ学んだ。
- 単元ゴール時の児童の姿に繋がる体験活動を設定すると、児童の学びが深まることが分かった。
- ▲総合的な学習の時間の研究授業ができなかった。教育課程における大きな役割を総合的な学習の時間が担っていることを再認識し、各校で取組を進める必要がある。
- ▲コロナ禍もあり、表現をする場が減っている。そのため、表現方法の工夫が必要である。

4 実践事例

(1) 授業の概要

第1学年 生活科 単元「たのしい あき いっぱい」
授業者 木下 亮 教諭 (益城町立津森小学校)

① 研究の視点に沿った授業づくり

【研究視点1】「探求的な学習過程における豊かな体験活動の工夫」

- ・校内や地域、香りの森で秋の自然に触れる機会を十分に確保し、秋の木の実や木の葉を使っておもちゃづくりをし、単元のゴールには保育園との交流会を実施する。

【研究視点2】「気付きや考えを整理・分析・表現・交流する言語活動の充実」

- ・「計画→体験活動→振り返り」を繰り返し行うことで、自分の考えを広げたり深めたりする。
- ・自然の変化やおもちゃづくり、交流会などでの児童自身の気付きや考えを表現し交流する機会を十分に確保しながら、整理・分析することを通して、気付きの質を高めたり思考を広げ深めたりする。

【研究視点3】「子どもの学びをつなぎ深める指導と評価の工夫」

- ・毎時間の授業で、まとめや振り返りの時間を中心に、児童の学びをつなぎ深める指導と評価を継続的に行うことで、児童が学習に主体的に取り組めるようにする。

② 授業研究会

○自評

- ・事前研で遊ぶ体験を入れた方がいいという意見が出たため、取り入れた。教師もおもちゃ作りを実際にすることができ、自分も魚釣りを作って楽しかった。
- ・作りたいおもちゃの理由に「園児へ」という相手意識を持った児童も数名いた。
- ・「自分が楽しむ」という思いから、「みんなで楽しみたい」という思いが育ってきた。
- ・単元の見通しを第1時にすることで、児童が見通しを持って学習に取り組んでいる。

○研究協議

- ・秋のおもちゃで遊ぶという体験を取り入れたことで、児童が同じ思いを共有することができた。
- ・「先生の作ったおもちゃみたいに作りたい」とう思いが、次時以降のおもちゃ作りへの意欲へと繋がっていくのではないか。
- ・理由を述べる際、「どうしてか」というと発言していた。国語科との関連が見られた。
- ・生活科は「子どもの思いや願い」を大切にすることがベースにある。それは、全ての教育活動において大切なことである。

○指導助言

- ・自分が感じたこと・楽しかったことを「伝えたい、一緒にしたい」という思いから、他者との関りが生まれる。今回の授業も生活科の目標に沿った授業だった。
- ・教師がどの意見を取り上げるかによって、児童の思考がより深まる。それは、生活科だけではなく日々の姿や他教科での姿を見取っていくことが大切。

(2) 学習構想案

① 単元構想

単元名	「たのしい あき いっぱい」		
単元の目標	○秋の自然にかかわる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったり、身近な自然の違いや特徴を見つけたりすることができ、自然の様子や四季の変化に気付いたり、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたりするとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするができるようにする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることの面白さ、自然の不思議さに気付いている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見つけたり、身近な自然を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとしている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
秋の自然に関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、遊びの面白さ、自然の不思議さに気付き、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするができる児童。			
単元を通じた学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
あきのおもちゃまつりで、えんじとたのしもう！		秋の自然にかかわる活動において、秋の自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする。	
指導計画と評価計画（12時間取扱い 本時9/21）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	3	○校庭で、秋の草花や樹木、虫などの動植物を観察したり、木の実などを使ってその場で友達と簡単な遊びをしたりする。 ○夏の頃との様子を比較し、変化したところを話し合い、記録カードに書く。	【知】記録カード、発言 ○色や形、においなど、夏と秋の校庭の自然の違いに気付いている。 【思】観察、発言 ○これまでの経験を思い出し、秋の自然の特徴を探している。
二	4	○香りの森で秋を探し、秋の自然の中で遊ぶ活動について話し合い、ルールやマナーを守りながら、自然を観察したり遊んだりする。 ○香りの森での活動で楽しかったことや気づいたことについて話し合い、記録カードに書く。	★【知】記録カード、発言 ○身近な自然の様子が、夏から秋へ変化していることに気付いている。 ★【思】観察、記録カード、発言 ○秋の自然物を使うと、どんな遊びになりそうか想像しながら、遊びに使う自然物を選んでいく。 【態】観察、発言 ○秋の自然と関わりたいという思いを持ち、試行錯誤しながら秋の自然を生かした遊びを楽しんでいる。
三	1	○秋の自然の中で活動したことを振り返り、友達と紹介し合う。	★【思】ワークシート、発言 ○季節によって楽しめる遊びが変わるなど、生活の様子が変わること気付いている。 【態】発言 ○季節を生かして遊ぶことに楽しさと手応えを感じ、これからは季節の遊びを楽しもうとしている。
四	9	○秋のおもちゃを作る活動について話し合う。 【本時】 ○校庭や公園などで集めた葉や木の実、身の回りから集めた材料からおもちゃ作りに必要な材料を選ぶ。 ○おもちゃや楽器を工夫して作りながら遊び、自分が作ったおもちゃや楽器を改良したり、作るおもちゃを変えたりして楽しむ。 ○作ったおもちゃで友達と一緒に楽しみながら、もっと楽しく遊べるように作り方や遊び方を工夫し、みんなで遊びを楽しむ。	★【知】ワークシート、発言 ○いつも同じ現象が起こるなど、自然の中に一定のきまりがあることに気付いている。 ★【思】ワークシート、観察 ○秋のたからものを使ったおもちゃで遊び、自分が作りたいものを考えることができる。 ○様々な自然物を試しながら比べ、材料を選び、おもちゃを作っている。
五	4	○自分が作ったおもちゃで園児と一緒に遊ぶために、話し合いをし、準備をする。 ○自分が作ったおもちゃで、園児と一緒に遊ぶを楽しむ。 ○おもちゃを作ったことや遊んだことを振り返り、記録カードに書く。	★【知】観察、交流、ワークシート、発言 ○自分が遊びを創り出したことで、みんなが楽しく遊ぶことができるようになったことに気付いている。 ★【態】観察、交流、ワークシート、発言 ○自分で遊びを創り出す面白さを実感し、これからは遊びを創り出そうとしている。

② 本時の学習

目標

秋のたからものを使ったおもちゃで遊び、自分が作りたいものを考えることができる。

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	3分	1 前時までの活動を振り返り、課題をつかむ。 2 本時のめあてを確かめる。	○記憶を想起させるために、前時のワークシートなどを示す。 ○学習計画表でめあてを確認させる。
展開		3 おもちゃ箱の中にある秋のおもちゃを実際に使って遊んでみて、本時の活動の射通しを持つ。 ◇どんぐりごまは、クルクル回るからおもしろいな。 ◇松ぼっくりのけん玉は、保育園の子どもが喜ぶね。 4 秋のたからものを使って、何を作りたいのか理由とともに考え、発表する。 (1) 個人 (2) ペア (3) 全体で ◇ぼくは、どんぐり迷路を作りたいです。どうしてかという、迷路を試してみたいからです。 ◇わたしは、ペンダントを作りたいです。どうしてかという、かわいし、保育園の子どもも喜ぶと思うからです。 【期待される学びの姿】 おもちゃを作りたいという自分の思いと共に、相手意識を持ってその理由を考えることができる。	○教師が用意した「おもちゃ箱」からおもちゃを使って遊ばせる体験をさせることで、おもちゃづくりの発想を高める。 ○どんなおもちゃを作りたいか理由とおもに考え、ワークシートに書いたものを写真に撮り、提出箱に提出する。 ○セルフトークで発表の練習をすることで、ペアや全体での発表に活かす。 ○全体発表で、それぞれ作りたいおもちゃとその理由を板書しながら整理し、どの理由がいいのか発問し、相手意識を持つことの大切さに気付かせる。 【具体の評価規準】思考・判断・表現 ○秋のたからものを使ってどんなおもちゃを作りたいのか、自分の思いを友達に伝えることができる。 (方法：行動観察・発言) 【到達していない児童への手立て】 ○個別に声掛けをして、どんなおもちゃを作りたいのか思いを引き出し、考えを整理させる。
終末	5分	3 本時のまとめと振り返りを行う。 【まとめ】 じぶんもほいくえんじもたのしめるおもちゃをつくるのがたいせつ。 ○振り返りカードに、本時の振り返りを書く。 ◇ぼくは、保育園児が喜ぶように、松ぼっくりのけん玉を作りたいです。 ○次時は、おもちゃ作りの計画を立てて実際に作ってみることを周知する。	○学習のふり振り返りとともに、次時への意欲を高める。 えんじさんたちがたのしめるように、むずかしくないおもちゃがいいとおもいます。 やじろべえはおもしろいからです。やじろべえをつくってほいくえんせいをよるこばせたいからです。

